

## 第1回那覇空港技術検討委員会 議事概要

### 1. 開催日時

平成20年9月22日（月）13：00～16：20

### 2. 開催場所

沖縄県水産会館

### 3. 出席者

#### (1) 委員

小田 勝也	国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長
香村 眞徳	琉球大学名誉教授
遠藤弘太郎	(佐藤委員代理) 定期航空協会企画小委員会委員
島田章一郎	那覇空港ビルディング株式会社常務取締役
津嘉山正光	琉球大学名誉教授
辻 安治	国土交通省国土技術政策総合研究所空港研究部長
轟 朝幸	日本大学理工学部社会交通工学科教授
東 良和	沖縄経済同友会観光委員長
福島 駿介	琉球大学名誉教授
宮城 邦治	沖縄国際大学総合文化学部教授
屋井 鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授

#### (2) 関係者

大越 康史	国土交通省航空局空港部計画課空港計画企画官
傍士 清志	国土交通省大阪航空局空港部長
菅野 顕	国土交通省大阪航空局那覇空港事務所長
上里 至	沖縄県企画部企画調整統括監
吉永 清人	内閣府沖縄総合事務局開発建設部長

### 4. 主な議題

- (1) 委員長及び委員長代理の選出
- (2) 想段階及び技術検討委員会の進め方について
- (3) 総合的な調査のとりまとめについて
- (4) 滑走路長および滑走路処理容量の検討について
- (5) 航空需要予測の精査について
- (6) 滑走路増設案の検討について
- (7) 評価項目の設定について
- (8) 複数案の比較検討について

## 5. 議事概要

- (1) 委員の互選により屋井鉄雄委員が委員長に選任された後、津嘉山正光委員が委員長代理に選任された。また、事務局より、第1回那覇空港構想・施設計画検討協議会の審議内容の概要及び19日(金)に豊見城市長が那覇空港の拡張整備について発表した声明の内容を報告すると共に、議事次第の議事に沿って各資料を説明し、その後、質疑応答がなされた。
- (2) 本委員会における審議内容は、概ね以下のとおり。
  - (イ) 構想段階は既に始まっており、今後の構想段階P I (パブリック・インボルブメント) を含めた計画プロセスの概略スケジュールについて早急に示す必要がある。
  - (ロ) 滑走路処理容量については、滑走路増設後に実際に行われる様々な運用方式とは別に計算上の数値として理解しておく必要がある。一定の単純化した前提条件に基づいて、代替案間の比較が行える程度の数値が算出されていれば良い。但し、算定の手法はわかりやすく示す必要はある。
  - (ハ) 最新の動向を反映して見直しを行った需要予測については、予測値以上に増加が期待されるという意見や、今後需要低下のリスクもあり得ることなどが意見交換されたが、定量的モデルに反映できない要因の存在を明示した上で、最新の方法及びモデルによって行うことが確認された。
- (ニ) 昨年度まで実施してきた総合的な調査段階における滑走路長及び滑走路端安全区域長、連絡誘導路の箇所数、展開用地等の前提条件の見直し。
- (3) 本委員会にて了承を得られた内容は、以下のとおり。
  - (イ) 技術検討委員会の進め方について。
    - ・ 構想段階P I 前に滑走路増設案を1つに絞り込むことを前提とはしないこと。
    - ・ 今後のスケジュールの公開を前提に、配付資料3「構想段階及び技術検討委員会の進め方」を分かり易く修正すること。
  - (ロ) 滑走路長及び滑走路処理容量について。
  - (ハ) 今後の構想段階の検討にあたり必要となる滑走路端安全区域長、連絡誘導路の箇所数、展開用地の面積等の前提条件(諸元)の絞込みについて。
- (4) その他、主な意見は以下のとおり。
  - (イ) 構想段階を今後どのように進めていくのかスケジュールを提示すること。
  - (ロ) 滑走路増設案を検討するには、環境影響、社会影響を十分に配慮すること。なお、自然環境の検討に関しては、潮流の影響だけではなく波浪の影響について検討を行うこと。また、環境関連の資料についても、専門的になっており分かりづらいため、一般の方が理解できるようなまとめ方に工夫すること。
  - (ハ) 高速脱出誘導路や連絡誘導路等の基本施設の計画については、航空機の利便性及び運用面についても、十分に考慮すべきであること。
  - (ニ) 次回の委員会資料に関し、総合評価については、議論をしやすいような内容にする必要があること。